

【共催・協賛会議報告】



共催・協賛会議報告

◆ 文部省科学研究費 重点領域研究「人工現実感」公開シンポジウム報告

* 筑波地区

葛岡英明

(筑波大学構造工学系)

(News letter Vol.2, No.11)

平成9年10月15日、文部省科学研究費重点領域研究「人工現実感」の筑波地区公開シンポジウムが開催された。3時間のシンポジウムのうち、最初の1時間は研究概要説明、残りの2時間は岩田研究室と葛岡研究室のデモンストレーション見学とした。参加者の数は23名で、デモンストレーションを十分に見学、体験するにはちょうど良い程度であった。

ほとんどの見学者が十分にシステムを体験することができたため、システムの性能を試すための様々な入力を試みる見学者も少なくなかった。また、最初の概要説明の時間には質問がまったく出なかったが、デモンストレーションの間には、インフォーマルな雰囲気も手伝って、多くの質問が出された。拠点方式シンポジウムの利点は実際のシステムを見ることができるという点であることを実感した。

ただし、こういったデモンストレーションは効果的である反面、その準備に要する苦労は相当に大きい。以前から、このシンポジウムまでにシステムを完成させることを目標に作業を進めてきたが、日が進むに従い、とにかく、直前までシステムを開発し、できるだけ最新の状態を見て頂こうという欲が出てきてしまった。準備をする学生は、最後の数日間は徹夜に近い状態が続いたようである。

当日のシンポジウムの様子は

<http://www.kuzuoka-lab.esys.tsukuba.ac.jp/VRjuten/seika.html>
を御参照頂きたい。

* 東海地区

横井茂樹

(名古屋大学情報文化学部)

(News letter Vol.2, No.11)

このシンポジウムでは東海地区の(30代を中心とする)若手研究者に集まって頂き、VRについてのお互いの研究アプローチについて理解を深めるのを目的として開催されたものである。この地区の7人の研究者にVR関係の研究の現状を紹介して頂くとともに今後の展望について報告頂いた。

研究はVR対話ソフト、VR知識ベース、実空間と仮想空間の合成・対比、VRとテレロボティックスの関連など多様な話題でしかも先進的な研究事例が報告された。

しかし、研究相互に関連深い部分もあり、とくに、実空間と仮想空間の合成や対比、VRにおけるモデルの導入の重要性など共通の問題として理解が深まった。

参加者は名古屋大学の学生を中心として約40名であったが、内容の濃い講演が多く興味が高まったとの意見が多かった。これまで地理的に近くても面識がなかった研究者同士の交流の場ともなり有意義なシンポジウムであった。

* 九州地区

竹田 仰

(長崎総合科学大学)

(News letter Vol.2, No.11)

九州地区VR拠点シンポジウムは、重点領域の研究者を中心に、その他にも九州地区でVRを研究している研究者にも声をかけてシンポジウムを開催することにした。開催地は研究者や聴講する人々が参集しやすい福岡市に選定した。会場は、福田学園(東和大学)が有する研究会等の特別施設であるミネルバ会館を使用した。講演時間は午前10時から始め午後3時40分まで12件の発

表があった。一件の講演時間は20分で活発な質疑応答が行われた。セッションを4つに分け、第1セッションが心理関係、第2セッションが運動感覚関係、第3セッションがエージェント関係、そして第4セッションが入力インタフェースによる操作関係で、9件が大学で3件が企業の研究発表。参加者は、大学29人、企業13人、工技センター、テクノポリス関係4人であった。地域は福岡県が40名、大分県が2名、長崎県が1名、熊本県が1名、東京から2名の参加があった。当日、参加者には講演者の研究が分かるような資料をまとめて印刷し配布した。九州地区のVR研究も、心理から運動機能や福祉関連さらにエージェント、アニメーションや芸術方面へと広範囲に及ぶ活発な研究が開始されているように思う。今回の産官学を交えたVRの九州地区シンポジウムは今後のVRの進展により刺激になると共に、研究者の交流のよい機会となった。会場では、九工大の安部研究室によりVRの実演デモが行われた。また、講演終了後、東和大学のVR研究室を見学した。この後、自由参加で大学近くの店で懇親会を行った。

*奈良先端大

佐藤宏介

(奈良先端科学技術大学院大学)

(News letter Vol.2, No.11)

平成9年度「人工現実感」拠点方式シンポジウムの第4回シンポジウムが、11月6日(木)13時から17時の間、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科大講義室で開催されました。重点領域関係者が15名、企業研究者を中心とした一般来訪者が5名、奈良先端大関係者が12名、計32名の参加があり、2件の一般講演、4件のデモンストレーション講演、1件のビデオ講演、1件のデモンストレーションがありました。デモンストレーションは、情報科学研究科内の画像処理実験室、VR実験室を利用して行われ、SGI ONYX Reality Engineと94インチ3面ハイビジョンスクリーンを駆使して行われるなど、研究成果を体感できるよう工夫されていた。

特に、坂口嘉之(東洋紡)さん、角所考さん、美濃導彦(京大)さんらの「仮想服飾環境PARTY一仮想試着室の試作」のデモンストレーションは、会場設置のONYXと東洋紡けいはんな研究所設置のサーバとをインターネットを通じて連携させて行われ、好評であった。このシンポジウムにより、VRの研究成果の公開はドキュメントによる論述も重要であるが、適切なデモンストレーションによる体感、実感こそが本質であることが理解され

た。

*岐阜大学

松波謙一

(岐阜大学医学部反射研究施設)

(News letter Vol.2, No.11)

第五回(岐阜大学)シンポジウムが以下のプログラムで平成9年11月7日(金)に開催され、成功裏に終了したので報告する。

1. 日時:平成9年11月7日(金)13:00~20:00
2. 場所:岐阜大学工学部第1会議室(講演)
岐阜大学バーチャルシステム・ラボラトリー(見学)

3. プログラム:

13:00~17:15

*司会 松波謙一担代表者、岐阜大学医学部教授

*講演

13:00~13:50 "脳の中の「現実感」"三上章充 京都大学霊長類研究所教授

13:50~14:40 "人工現実感から複合現実感へ"田村秀行(株)エムアール・システム研究所取締役研究開発ディレクタ

14:40~15:00 休憩

15:00~15:30 "On VSMM'97, VSMM'98, and VSMM Society"

スコットスレーン VSMM国際学会事務局長

15:30~16:00 "岐阜県におけるVR"小鹿丈夫 岐阜大学工学部教授

16:00~17:15 岐阜大学バーチャルシステム・ラボラトリー(VSL)見学

1. 挨拶:川崎晴久 岐阜大学VSL施設長(工学部教授)

2. 案内:川崎晴久VSL施設長松波謙一教授
小鹿丈夫工学部教授、木島竜吾工学部助手

3. 懇親会:

18:15~20:00 「全国VR関連企業交流会」との懇親会、岐阜キャスルホテル

4. 主催:重点領域研究「人工現実感」総括班

後援:岐阜大学バーチャルシステムラボラトリー
岐阜県VRテクノセンター

*北海道大学

小林有希子・李乙松・井野秀一